

オルガノン要約 § 71～§ 77

§ 71 人間の病気は、「ある種の症状が集まったもの」以外にはありえない。

ホメオパシーによる治療行為は三つに限られる。(§ 3)

- 1) 治療のために必要なものを探求すること。§ 72～104
- 2) レメディのエネルギーを探求すること。§ 105～148
- 3) レメディの適切な適用の仕方。§ 149～

§ 72 人間の病気には二つある。

- 1) 急性病：病的進行が速く、適度に短い期間で病気の進行を終える。
 - 2) 慢性病：初期の段階では目立たず、少しずつ健康を蝕んでいく。
- 生命エネルギーは病気に対して不完全で不適切で無駄な抵抗を企てるだけで、自分のかかった病気を独力で消滅させることはできない。最終的に身体が破壊されるまで異常な状態にする。この病気は慢性マヤズムを通じてダイナミックな感染によって発生する。

§ 73 急性病には三つある。

- 1) 有害な要因にさらされたことがきっかけとなって個別的に人間を襲うもの
たいていそれは潜伏していた **Psora** (乾癬) が表面に湧きあがったものに過ぎず、症状も激しいものでなく、すぐに除去されるならば、**Psora** は自ずと休眠状態に戻る。栄養過不足・外傷・冷え・激情など。
- 2) 気象や大地の影響力や有害因子をきっかけとするもの
 - a) 散发性：同時にあちこちで複数の人間の感受性に合わせて襲いかかる。
 - b) 流行性：a とほとんど同じで、同じ原因から多くの人々に襲いかかり極めて似た症状を見せる。
 - c) 感染性：大勢の人々がいる集団の間に蔓延し、感染する。こうした病気は発生源が同じだから、病気になった人たちの病状が進行する様子は同じである。放置すると死に至るか、健康を回復する。戦争・洪水・飢きんなどが、こうした病気の誘因や発生源になる。
- 3) 流行性・感染性の急性病には、同じ仕方で繰り返し表れる特有の急性マヤズムによって起こるものがある。
 - a) 生涯でたった一度だけ人を襲うもの(天然痘・麻疹・百日咳・おたふくなど)
 - b) 何度も繰り返し発症するもの(レバント病、黄熱病、アジアコレラなど)(注) ホメオパスの治療は、病名で判断せず、病気の特性に従う。

§ 74 医原病：

アロパシー療法によって作用が激しく英雄のように戦う薬を増やしながら大量に投与され続けることによって起こる。これも慢性病のひとつと見なさなければならない。
アロパシー薬に対して生命エネルギーは、生命を維持するために身体の体制を変えなければ

ばならない。そうして身体の内側と外側のいたるところに欠陥が生じる。部分的に膨張・収縮・弛緩・硬化・破壊などの奇形化対応によって生命が破壊されることから守っている。

(注) 瀉血・アロパシー批判。

§ 75 アロパシーによる慢性病は最も治癒が困難である。それが進行すれば最適なレメディを見つけることも作ることもできない。

§ 76 本来、ホメオパシーは、アロパシーによる病気ではなく自然の病気から人間を救うものである。

長年にわたるアロパシー治療がなされず、他の治療法がなされたなら、背後に存在する慢性マヤズムに対して生命エネルギーがそうした身体の状態を何年もかけながら回復させただろう。

§ 77 擬似慢性病 (Maintaining cause)

自分の意志で避けることのできる有害因子による不健康な状態は、慢性マヤズムが潜んでいなければ生活様式を改善するだけで自然に消える。これは慢性病とは言えない。